

令和元年度 第2回明石市総合教育会議（議事要旨）

日 時	2019年(令和元年)10月16日（水）15:30～16:40
場 所	明石市役所議会棟 大会議室
出席者	泉房穂市長、清重隆信教育長、栗岡誠司教育委員、井筒典久教育委員 伊賀文計教育委員、川本まり子教育委員 奥田正樹教育推進委員、久保美和教育推進委員、村岡有紀教育推進委員、 小山順子教育推進委員、大橋有加教育推進委員、金谷四郎教育推進委員
協議・調整 事項	(1) 組体操について (2) 学力向上に向けた取組について (3) まちへの愛着を育む取組について
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1 学力向上に向けた取組について ・ 参考資料1 2019年度（令和元年度）明石市小・中学校学力向上方策について ・ 資料2 まちへの愛着を育む取組について ・ 広報あかし特別号 2019年（令和元年）9月15日号「あかしこども新聞」 ・ 関連資料2 100周年記念本（サンプルページ） ・ 資料3 組体操について ・ 参考資料3 組体操演技図
事務局	政策局政策室 （その他出席者） 教育委員会事務局、あかし教育研修センター、市制施行100周年記念準備推進室

1 開 会

（市長）

- ・ 教育推進委員の方にもご参加いただくことになった。よろしくお願ひ申し上げたい。
- ・ 組体操についても、本日皆様のご意見を賜りながら一定の方向付けをと考えている。市長としては、権限の問題よりもこどもたちの安全の責任は市長にあると思っている。この会議で方向付けをしたいと思っているので、ご理解よろしくお願ひしたい。

2 議 事

- ・ 議題は次第の3番目の「組体操について」から始めたいので、説明をお願ひする。

(1) 組体操について

- ・ 教育長から、資料3に基づき、組体操について説明の後、意見交換。

（教育委員）

- ・ 組体操は、例年慣行で続けているところもある。来年度で全部止めるのではなく、一旦止めてみて、他の演目や競技を検討し、その中で組体操が選ばれる年があってもいい。

- ・二見中の運動会を午後から視察したが、ダンスをしていて大変拍手も大きかった。組体操だけでなく、多様な取組みがあるといい。
- ・事故が起きて、段が下がってきているが、その中でも怪我があるので、こどもの基礎体力を見直し、体育の授業から検証して、また組体操が安全第一でできることがあってもいい。

(教育委員)

- ・もう一度検討し直すことが必要だと思う。中学生の骨折は、治り方によって、後遺症とまでは言えなくても動きがたくなるなど、将来にも影響する。
- ・怪我をしないにこしたことはない。組体操をするのであれば、日頃の体育の授業をしっかりと見直し、組体操ができるだけの体力や準備が必要である。

(教育委員)

- ・花園小学校を視察して、組体操を見てきた。昔はピラミッドやタワーなどで難易度を争うような種目が多かった。今年を見ると、全員できれいに揃えるという方向性になっており、こうしたものであれば、安全にできるのではないかと思う。
- ・今回のデータを見ていくと、二人種目での怪我が非常に多い。難易度以前に、こどもたちの体力に問題があるのではないかと思う。今後の方向性として、来年度は見合わせて、それ以降のことを考えるという場があってもいいのではないか。

(教育委員)

- ・来年度は、立ち止まって今後の在り方を検討していくほうが良い。私自身はこどもの頃の運動会の記憶として、組体操は頭に強く残っている。将来、組体操はやってほしい気持ちはあるが、こどもの安全が第一なので、その点をよく検討して進めていただきたい。

(市長)

- ・市長としては、学校現場が対応いただくテーマだと思っている。ただ、昨年来から言われてきて、今年は十分に安全に配慮をした上で、実施をお願いした経緯がある。教育委員会、学校現場も相当怪我しないようにという意識をもって実施したにもかかわらず、骨折事故を含め数多くの事故が生じている。
- ・教育長からも方向性が示されたが、いったん立ち止まって、こども達や保護者、学校現場の皆様の意見を踏まえながら、再度組体操を安全に復活するのか、組体操に代わるマ스ゲームなどで代替するのか、次年度かけて方向付けしていく。
- ・次年度は、明石市内においては一旦見合わせるということだと理解している。
- ・教育推進委員の皆様もお越しなので、この点についてご意見等があればお願いしたい。

(教育推進委員)

- ・組体操について、今年は怪我と6名の骨折があり、本当に大変なことだと思う。今、一旦中止として、こどもの思い出に残る安全な競技を考えたらと思う。学校生活の中で、こど

もの記憶に残る楽しい運動会にして欲しい。また、強いこどもの育成をお願いしたい。

(教育推進委員)

- ・私もこの案には賛成する。組体操は学校教育の一環であるので、最終的には学校が判断すれば良いと思う。安全に気を付けて、こどものためにどのような運動会の種目をしたらいいかを考えて実施した結果、怪我が出た。これは、学校側としても残念なことだと思う。
- ・今後のことを考えると、今のこどもたちは体力的にも劣っていると思うので、こどもの体力面をある程度考慮した、環境面の整備が必要である。将来的には、もっと違う方向でこどもたちの体力面が運動会で花開いたらいい。怪我をして一番困るのはこどもで、骨折すると学習面やその他行事にも影響するので、見直す時期に来ているのではないかと考える。

(市長)

- ・学校現場からは、教育長も校長の皆さんからの意見を聞いたと思う。学校現場からも、今回の案に沿うような意見が出たと聞いている。補足説明いただきたい。

(教育長)

- ・今年の実施に当たっては、各学校で校長はもちろん運動会の担当教諭も万全を期してやっている。そのため、この程度で済んだという言い方ができるのかもしれない。
- ・ある校長に話を伺うと、あれだけ安全を期してやったにもかかわらずそれでも怪我が出たしまったというのは、根本的に基礎的な体力づくりから始めなければいけないのではないかと。基礎的な体力が十分でない中で、続けることは多大なリスクを背負うことになるし、こどもにも負担になる、という話があった。ここで立ち止まって見直す必要があるのではないかとのご意見もあった。
- ・そうしたご意見を踏まえながら、一定の方向性を示していきたい。皆さんからのご意見にあったように、体育、基礎的な体力づくり、器械運動、ラジオ体操でも漫然とやるのではなく、一つ一つの役割や機能を十分理解したうえで体づくりをしていくことを、あらためて学校の授業の中でしていく必要がある。

(市長)

- ・こども時代は組体操が好きだった。昔は高さを競い、そこから一気に落ちる種目もあった。最近の骨折のけがは、高いところからではなく、二人組のシンプルな状況でありながら、怪我をしている。教育長も言われたように、基本的な体力づくりを含めて対応していかなければいけないと感じている。
- ・あらためて確認するが、令和2年度は、小中学校の体育大会、運動会における組体操の実施は見合わせることにし、組体操の代替種目の検討や令和3年度以降の組体操の在り方について協議を行うということで、この総合教育会議での合意としたい。

(教育委員会・教育推進委員)

- ・ 異議なし。

(2) 学力向上に向けた取組について

- ・ 教育長から、**資料 1**に基づき、学力向上に向けた取組について説明の後、意見交換。

(教育委員)

- ・ 小学校6年生の国語がマイナスで、誤差の範囲3%以内で全国平均であるといいながらも、平成30年や平成29年を見ていくと、マイナスが多いので、非常に気になっている。
- ・ 大学生を教えていても、文章がきちんと読めない大学生が若干いる。基本的には、小学生からきちんと文章は読めないといけない。国語力向上の面で、もう少し何か施策があれば良いと思う。**参考資料 1**を見ると、教育研究事業の中に国語力向上とか読解力向上といった何かほしい。市指定教育研究事業に道徳、英語はあるが、国語、数学、算数という基本的なものがもう少し欲しい。それが、中学校でも成績に反映される。
- ・ 思考力、判断力、表現力も教育長が言われたように、大学入学共通テストで今後非常に大きな課題になってくると思う。試行テストも化学を見せていただいたが、知っているだけでは答えられない。知ったうえで、考えて判断して答えるという問題が出されている。ぜひ、次の世代のためにも国語力の向上をよろしく願いたい。

(教育委員)

- ・ 私も国語力というのは、すべての教科の土台だと思うので、国語については小学校6年生が全体的にマイナスがついているのが悲しい。国語力がきちんとあることで、理科、社会、算数など、他の教科も上がってくるのではないかと考えている。さらに、ビブリオバトルなど、明石市はいろいろ努力をされているが、もっと国語力の向上に取り組んでいただきたい。
- ・ 学校現場だけでは、子どもたちの教育にも限界がある。いかに、家庭で教育に対する熱意を持って頂けるかである。市長は、施策で家庭の支援をされているが、家庭が少しでも豊かになることで、教育にも関心を持ってもらえるのではないかと。

(市長)

- ・ 国語に関して、教育長や学校現場での分析や状況の受け止めについてご説明願いたい。

(教育長)

- ・ 一つは、識字力はあるが、何が書いてあるかを読み上げることはできるが、文節ごとの役割やどう構成しているかを把握する力が弱い。より論理的な思考や文章を正確に読む、文と文との行間を読み解くことも大事であるが、そもそも行そのものを理解できていない。
- ・ 来年からの小学校の教科書の採択にあたって、採択委員の国語部会の先生方に議論をいただく中で留意をいただいた。従来使っていた教科書とは違う、論理的な文章をしっか

りと身に着けることに重きを置いた教科書を来年度から採択する予定にしている。

- ・いきなり読解力を高めるといっても、こどもが消化不良を起こしても困る。まずは、本をしっかり読む習慣をきちんとつけることを一から始めて、徐々に中身について興味を持ってもらい、それを正確に読み解くことに触れていただきたい。

(教育推進委員)

- ・ 中学校に入ると、国語のウエイトは保護者の意識からも薄くなる。小学校の間は国語と算数、中学校に入ると英語と数学に保護者の意識が向いてしまう。
- ・ 言葉の力というのは、小学校低学年でどれだけ本を読むかであり、黙読ではなく、しっかり声を出して音読する指導を小学校低学年でどれだけできるかだと思う。
- ・ また、国語力を基に伝統の教育、数的処理の教育、外国語の教育、それプラス理科学的な探求心というものの取組が次年度始まればいいかなと思っている。

(教育推進委員)

- ・ グローバル化教育に関して、英語の教育に重きが置かれていたと思うが、世界的にみると英語話者はすべてではない。第2言語として英語をしている方もいる。
- ・ こどもたちが社会に出る前に英語ももちろん必要であるけれども、それ以外にも世界は広がっていて、いろいろなものがあるというような内容の、英語教育以外のグローバル教育というのも今後必要になるので、取り入れていただきたいと考えている。

(教育推進委員)

- ・ 現在4歳の娘がいる。結婚を機に明石に引っ越してきて、教育に力を入れていること、本や図書館に力を入れていることは、こどもを持つ身として魅力に感じている。
- ・ 国語力は大事だと思っており、国語力がなければ、他の教科、例えば算数にしても文章を読んで何が問われているのかがわからず、その問題は解けない。小学校低学年の時に国語の宿題が出た場合、音読などを家族が聞くことで親も注目する。学年が上になればなるほどそれが薄れてくる。小学校6年生で低いのは、保護者の立場としては少し心配である。
- ・ これだけ本に力を入れている市であり、保育所では毎週好きな本を借りて家に帰って読むことや、本の読み聞かせもしているので、こども達も興味を持っている。音読して、耳から聞くことによって、読解力や理解力が深まるので、もっと1～2年生の時に読み聞かせ、自分で読むだけではないアプローチ、本に興味を持ってもらう施策をしてほしい。

(市長)

- ・ 明石市が本のまちと言っている中でのこの状況である。明石市では、4か月検診時にブックスタート事業で、本を読み聞かせて本をプレゼントし、3歳児検診時にもブックセカンドとして同様のことをしており、移動図書館車も2台体制で市内を走らせている。
- ・ 順々にしているところではあるが、ベースとして本を読む力を市長部局としてもさらに力を入れていきたいと思っている。国語教育について、事務局での課題認識はどうか。

(教育委員会事務局)

- ・ 小学校では、国語の授業時数が最も多く配当されている教科になっている。1年生では、毎日1時間以上2コマずつくらいある。国語については、各委員が言われる通り、基本中の基本と考えている。朝の読書活動や、朝の短文作文も各学校で行っている。時間割のコマ以外にも国語、読書に親しむ時間をとっている。
- ・ 最近図書館が、本を学校にまとめて運んでくれるので、そうした本を学級文庫に取り入れてこどもたちの本を読む機会も増やすように努力している。

(市長)

- ・ 国語の点数については、数字に一喜一憂するのめという意見もあるが、全国平均を2%下回っている数字が出ている。あらためてご意見があり、基本的にベースとなる国語力は、小学校の段階で大変重要なので、市長としては、教育委員会でも、小学生の国語力をしっかり高めるような工夫を他自治体の取組も参考にし、整理していただくことを強くお願いしたい。
- ・ グローバル教育で英語以外の話もあったが、明石市でもベトナムやインドネシアの方も増えていて、外国人労働者の問題もある。多言語になってきているので、今後、観光案内所のバージョンアップの際にも、多言語対応を予定している。こどもの頃から、日本語以外が英語だけではないので、そのあたりも含めて、また知恵を絞っていただければと思う。

(3) まちへの愛着を育む取組について

- ・ 教育長から、資料2に基づき、まちへの愛着を育む取組について説明の後、意見交換。

(市長)

- ・ 明石市は、こどもを核としたまちづくりを進めている。こどもを単なるお客さんにとらえるのではなくて、一緒にまちづくりをするという観点で、B-1 グランプリについても、こどもたちからも応援をいただいて、一緒になって取り組んでいる認識である。
- ・ 明石も狭いようでそれぞれ特色がある。自分の身近なところに歴史を感じるところがあったり、おいしい食べ物があったりするので、明石を広くとらえずに、自分の小学校区で、再度明石の良さ、地域の良さを発見してもらう取組を進めている認識である。
- ・ 100周年の記念冊子について、明石では、こどもたちにも親しめるような漫画も取り入れた明石を感じる冊子としており、11月1日の式典で配布しようと考えている。

(教育委員)

- ・ 明石生まれ明石育ちなので、昔から明石は好きだったが、客観的に外からの情報として、明石の良さが発信されていると感じている。この「私たちの明石」も戦災のことも載っていて、歴史的なことも、戦争の記憶のようなことも網羅されていると思った。

(市長)

- ・ 戦災の話が出たが、明石市は、文化博物館の一部を次年度平和資料室にする。明石も6度ばかり被災して1,464人の方が空爆で亡くなるという大きな被害を受けたまちである。
- ・ 戦災の記憶が薄れつつある中、語り部の方にお話をいただき、子ども達にも明石市の戦争の歴史についても知ってもらう取組をしていきたいと思っている。

(教育委員)

- ・ 最近引っ越してきた方に、明石は良いよねと、ほどほど田舎、ほどほど都会というところが大変良くて、子どもを遊びに連れて行くところがたくさんあると聞いた。
- ・ 駅前も、明石公園もそうだが、海があるので夏になると簡単に自転車で子どもと海に出かける姿をよく見る。やはり、遊べる場所というのが、子どもにとっては愛着がわくのではないか。家族で遊びに行ける場所ができるだけ多く増えると、愛着がわいてくると思う。

(教育推進委員)

- ・ 藤江の卸売市場の青果の理事長をしている。市制100周年を迎える中、市場から小中学校の給食で鯛料理を出させていただく。明石といえば、鯛、タコが全国的に有名で、今、小学校3年生が課外学習で市場に来ている。毎回、子どもたちの質問で答えるが、明石は日本の中でも非常に気候が良い。南には海があり、海といえば魚やタコも多くいて、魚を食べたら骨も丈夫になる。すぐ北に果物や野菜もあり、果物や野菜は血液もよくなるし、ビタミンもとれる。日本中でもこんなところはないと、子ども達に自慢するくらいである。
- ・ 明石公園、天文科学館、今各地域で行われている祭り、地元明石を子どもたちに伝える中、先生だけではなく親にも知ってほしい。いつまでも明石に住んでもらえるように、子どもや親に伝えてほしい。
- ・ あかし子ども新聞に関して、8月に市場にきていただいて、子どもたちがすごく感動していた。子ども達が課外学習するのは、一生の思い出になると思う。それを、大人が伝えていくべきで、子どもに明石はいいところだと教えていってほしい。

(市長)

- ・ 明石は農業のまちでもあり、大変お世話になっている。農業、漁業、工業、商業も盛んであり、身近なところで子どもたちが明石市の営みに関わっていければと強く思っている。

(教育推進委員)

- ・ 子どもたちは、周りの大人の影響を受けて、そのものが好きになったり、憧れたりということがある。普段、子どもたちと一番多く接する先生方がこういった明石のいいところがあるという研修をうけることは大変良いことだと考えている。

(教育推進委員)

- ・ まちへの愛着を育む取組の中で、初任者研修のまちづくり研修が非常に良い取り組みだ

と思う。あかし教育研修センターが発行している通信で、まちづくり研修の詳細を拝見した。3回のテーマに分かれた3つ目のテーマの中で、自分たちの地域にどんな施設があるのかを見学しに行くというのがあり、私も参加したいと思う大変良い取組だと思う。コース選択制だが、ぜひ時間の許す範囲で全部の施設を回っていただきたい。先生自身の愛着度も時間をかけることで深まると思うので、ぜひ続けていただきたい。

- ・ 動物センターもできたことで、単なる見学の場所ではなくて、命の尊さや自然の大切さを学べて、先生方にも動物センター自体が研修施設になりうると思う。教育委員会が動物センターと連携していくことは、全国でもいくつか事例があるが、なかなか教育委員会が動物センターに関わっていくことはないので、明石が初めて連携し施設の活用を進めてほしい。

(市長)

- ・ 教職員の研修と動物の2つのテーマがあったが、去年の4月に明石市が中核市に移行し、動物センターが立ち上がったので、小学校を訪問する取組もスタートしている。さらに、充実化していくことも考えたい。
- ・ 加えて、中核市になったので、兵庫県が行っていた教職員の研修も明石市が担うことになり、昨年からスタートしている。明石市は兵庫県が行っていた研修以上に、研修時間を増やし、明石市の取組や施設見学などを盛り込んだ。

(教育推進委員)

- ・ 先日、9月初めか8月末に魚市場でお祭りをしていて、そこで、子どもたちが生簀に入って、魚に触れ合える企画があった。多くの家族が来ていて、魚が食べられて、明石に住んでいて良かったという声をよく聞いた。
- ・ 愛着を持つことは、子どもたちが教育の場で、それを実感するのはもちろんあるが、親子で体験ができること、親が明石の素敵などころにいっぱい触れることが大事であると思う。
- ・ 10月15日の明石市の広報で、ごみ処理施設や給食センターなどの見学が公募されていた。見学することによって、大人も明石の素敵などころもわかるし、親子で参加できれば、より実感できると思うので、もっと身近に、もっとわかりやすく参加できると良いと感じた。

(市長)

- ・ 今のご意見を参考にしながら、引き続き教育委員会でもよろしく願います。市長部局でもいろいろできることがあるので、引き続きしっかりと考えていきたい。

(教育委員)

- ・ 少し視点が違うが、例えば明石への愛着を育むのに、施設、自然という面以外に、人という面もある。**参考資料1**の「3 豊かな心の育成への取組」に、共生社会の実現に向けての項目があり、パラリンピックの魅力を伝えるというのが書かれている。例えば、上地

結衣さん、芥川賞の上田岳弘さん、これだけ人も輩出している側面もあって面白い。

- ・ 「私たちの明石」は、大変面白いので小学校だけでなく、もっと一般の方にも広められるような方法があってもいいと思う。

(市長)

- ・ 「私たちの明石」は、市長部局としては、転入者にこれをお配りすることも検討している。明石についてわかりやすく書かれた良いものだと思っているので、次年度予算で計上するかどうか検討中である。

(教育委員)

- ・ 明石は東西に長くて、東の方と西の方で雰囲気少し違うところもある。人口も戦後10万人程度だったのが、今や30万人に膨れ上がっている。それは明石市で生まれた人が増えたわけではなく、外から入ってきた人が多くいる。
- ・ 細長いまちを、まとめていくのは大変難しいが、それがかえって明石の魅力かもしれないし、西は西で良いところ、東は東の良いところを活かせれば良い。まとめるのをどのようにしたら良いか、念頭に置いていただきたい。

(市長)

- ・ 本当に明石はたくさん良いところがある。この100周年で5月2日に布団太鼓、獅子舞を明石公園に一堂に会する場があり、自分の地域の良さを感じ、他の地域も知ることができた。

(教育推進委員)

- ・ 付け加えるが、先日関東地方に大きな台風が来た。明石にも同様の台風が来ることが想定される。明石市から防災マップが出ており、非常に良いことだが、まだ、防災マップが知られていない地域もある。防災を進めていく中で、地震や台風があってもいち早く明石市が避難所を案内してくれて、食糧を確保してくれる。明石ほど住みよいまちはないと思うので、明石が良いところだということをもっと各地域に教えてあげてほしい。

(4) その他

(教育推進委員)

- ・ 個人的な活動で、外国にルーツを持っている子どもたちの教育支援、日本語支援という活動を、NPO法人を立ち上げてしている。入管法も改正されたので、これから外国にルーツを持つ子ども達もどんどん増えてくるため、その支援についても、考えていただきたい。

(教育推進委員)

- ・ 松が丘保育所の父母の会の役員をしている。去年から関わっているメンバーで、子どもが小学生になった働く母親から、PTAにはどう取り組めばいいのかという相談があった。PTA

に対して、働いている母親が参加できるようにしてほしいという意見を言っただけで、今までの人が我慢してきたのだからと言って、改善してもらえなかったとか、PTAをやめるように言われ、その代わり子どもさんが困らないかと言われてしまう。

- ・ 相談を受けた保育所のメンバーも、将来自分たちの子ども達が小学校にあがるとき、PTAをどうしたらいいのだろうという思いがある。やはり、幼稚園からあがってきて、時間のあるお母さんとの気持ちの差というのが、どう埋めたらいいのかと思っている方が大変多いと思う。そういうことを共に考え、解決することを教育委員会の皆様に相談しながら、できたらいいと思っている。この半年間の中で、何か提案できればと考えている。

(市長)

- ・ PTA問題については、総合教育会議でも何度も取り上げている。この間も様々な取り組みをしてきている。PTAは任意団体という特殊性があり、既にいくつか新聞報道もあり市民の皆さんもご存じかと思うが、教育長から状況等の補足説明を言える範囲で願います。

(教育長)

- ・ PTAは、昨年度に個人情報保護法の改正があり、名簿の取扱についてあらためて整理することと、併せて、PTAに入るかどうかの意思確認ということが出てきた経緯がある。
- ・ 昨年度から今年度にかけて、連合PTAや各学校のPTAでも様々な検討があった。学校によっては、同意をとる新たな仕組みをした導入時期でもあり、ばらつきがあった。最終的には、保護者も学校側も、子どもにとって一番何がいいかということ話し合っ進めていくことなので、また来年度以降、移行の時期であると思うが、皆さんの中で話し合いながら、また教育委員会も連合PTAも得られた情報は、それぞれのPTAにも提供していく。

(市長)

- ・ 既にPTA活動は、PTCAといわれる。Pはparent、Tはteacher、Cはcommunityで地域である。子どもたちのために、学校現場と親と地域が一緒になって、知恵を出したり、汗をかいたりする大変重要な活動だと思っている。
- ・ 社会情勢の変化の中で、親の負担の問題もあり、PTAは強制加入団体でもなく、任意の団体で、子どもたちのために、時間や労力をかけていただける方を募り、子どもたちのために共に頑張っていく組織だと思っている。市長がどうこうできる団体ではないので、教育委員会が調整し、間に入っただきながら、試行錯誤している段階だと認識している。

(教育推進委員)

- ・ 明石は、本のまちであるとか、福祉のまちであるということはもちろん大事である。私は、教育のまちにしたいと思っている。それには、お金もいるし、行政と学校現場、地域社会が、三者一体となって、未来の子どもをつくっていく。これから10年、20年は想像できないようなことがあると思う。どういう子どもを育てたいかというビジョンを大きく持って、それによってそれぞれの分野に邁進していく。子どもを明石から育てて、世の中に出

して、世界に出したい。大きなビジョンがまず大事だと思う。

- ・ シニア世代はこれからますます割合が大きくなっていくが、知識もあるしお元気である。シニアの活躍の場をどこかでうまく取り入れて、協働して子どもを育てていく場を設定できないかと思っている。

(教育推進委員)

- ・ 高齢者大学で、よく講座をするために各中学校のコミュニティセンターを回っている。本当に皆さんお元気で、このエネルギーをどこへ向けたらいいのかというような方が、非常に多いと実感している。
- ・ こうしたシニアの方が今後も増えていく中で、子ども達のために何かできる活躍の場、機会を作ってあげなければエネルギーを放出する先がないのではないかと考えている。この点について、もっと新しいことをしていければいいと思っている。

(市長)

- ・ まさにその通りで、強い問題意識を持っている。教育委員会としてもコミュニティスクールという形で、各学校単位で地域と一緒に取り組み始めている。
- ・ 例えば、学童保育についても、特に夏休み期間などは時間もあるので、高齢者が活動している団体とコラボしてできることがあるのではないかと問題意識は持っている。

(教育推進委員)

- ・ 教育推進委員の面接を受けに行った時に、引きこもりやいじめの子ども達をどうにかしたいと話した。かなり難しいことだと思うが、ほったらかしじゃなくて、引きこもりやいじめのことを考えていくまちが良いと思う。
- ・ 友人に障害者の方がいるが、今は両親がいても、大人になると一人になり、生きていくことは難しいと思う。その点について、皆さんと話をすることで、これからも考えていきたい。

(市長)

- ・ 二つのテーマがあったが、ひとつは学校に行きにくい子どもへの対応で、既に教育委員会もいろいろ行っている。以前に総合教育会議でテーマにしたが、しっかり考えていきたい。
- ・ もう一つは、障害のテーマであり、これもインクルーシブ教育といわれ、できる限り早い段階から障害の有無にかかわらず、時間と感動を共にすることも大事で、そのためには一定程度、人の対応、予算を伴うが、できる限り前向きに対応していきたい。
- ・ 今日は本当に貴重なご意見、ご発言ありがとうございました。

3 閉 会

以上